

令和7（2025）年度

地域学校協働活動推進員養成研修④ 実施報告

実施日：令和7（2025）年9月24日（水）

地域学校協働活動推進員養成研修の第4回を栃木県総合教育センターにて開催しました。今回は、東京学芸大学教育学部 教授 柴田彩千子氏を講師にお迎えし、講話および事例研究・協議を行いました。

講話「子どもの成長を支える地域づくり

～子どもの現代的課題の解決に向けて求められる地域の力～

東京学芸大学教育学部 教授 柴田 彩千子 氏

講話では、地域づくりと住民の学習活動の関係性をはじめ、子どもが地域に参画する意義や、地域学校協働活動の可能性について、理論と実践の両面から丁寧にご説明いただきました。特に、川崎市の「子ども会議」や平間小学校の事例を通して、子どもが地域の一員として主体的に地域づくりに関わることや、大人との信頼関係の重要性を強調されました。

また、「生涯学習によるまちづくり」の視点から、地域の教育力を高めるためには、住民同士のつながりや多様な主体との協働が不可欠であること、そして子どもにとって「地域のおとな」の存在が、自己肯定感や社会性の育成に大きく関わることが示されました。

講話の後半では、「子どもを核とした地域づくり」を実践するために、私たち地域の大人ができることは何かをテーマに、参加者同士の話し合いが行われました。



事例研究・協議「これからのコーディネートを考える」

総合教育センター職員



午後には、事例研究と協議を通じて「これからのコーディネートを考える」演習を行いました。前半はグループに分かれ、付箋紙や模造紙を活用しながら、地域学校協働活動の理想像を可視化する地域協働マップづくりを行いました。グループ発表では、それぞれの地域の特色や課題を踏まえた多様なマップが紹介され、他グループとの違いや共通点に気付くことで、学びを深めることができました。後半では、個人の振り返りをもとに、今後の活動に向けた宣言を作成し、全体で共有しました。

閉講式

研修の最後には、閉講式を実施しました。研修に3回以上参加された受講者には、総合教育センター所長より修了証が授与されました。

また、所長からは、地域学校協働活動推進員としての今後の活躍への期待と、研修を通じて得られた知識や仲間とのつながりを地域での実践に生かしてほしいというエールが送られました。

受講者にとって研修の成果を実感し、次の一步を踏み出すための意義深い時間となりました。



【受講者の感想から】

- 地域、学校、家庭、行政企業などのコミュニティが相互に連携連帯しながら子育てしていける場の提供やコーディネートしていく事が必要と感じました。
- 斜めな関係性の大人の存在は、とても共感することが多々ありました。
- 川崎市の子ども会議は、大変興味深い内容でした。日頃の自分を思い返し、子どもたちへの声かけについて、考えるきっかけとなりました。
- 子どもを中心に実に広く多くのつながりがあると実感しました。
- 地域の人に感謝し、やって良かった！を感じてもらえるよう、コーディネートしていきます。
- 今後、自分がどんな活動をしていけば良いのかをイメージすることができました。
- コーディネーターは、縁の下の力持ちで、表には出ない存在と思っていましたが、学校からも地域からも顔と名前を覚えてもらい、橋渡し出来る存在にならねばと思いました。
- 「どんな地域協働員になりたいか」と問われたことが良かったと思います。少しハツとする質問でした。ボランティアという枠組の中、自分もハッピーに地域もハッピーになるようなことができたらいいなと思いました。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp